

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住 所 静岡県静岡市葵区追手町9番6号
管理機関(代表の機関)名 静岡県教育委員会
代表者名 教育長 池上 重弘

令和4年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月1日(契約締結日)～ 令和5年3月31日

2 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな	はままつし
管理機関名	浜松市
代表者職名	市長
代表者職名	鈴木 康友

②管理機関(産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	やまははつどうきかぶしがいしゃ
管理機関名	ヤマハ発動機株式会社
代表者職名	代表取締役社長
代表者氏名	日高 祥博

③管理機関(学校設置者)

ふりがな	しずおかけんきょういくいいんかい
管理機関名	静岡県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	池上 重弘

3 指定校名

学校名 静岡県立浜松城北工業高等学校
学校長名 寺田 弘隆

4 事業名 やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト
～ 社会で活躍できるスペシャリストの育成 ～

5 事業概要

ヤマハ発動機、浜松市、静岡県教育委員会及び指定校の連携によって、地元企業が求める人材像を共有するとともに、人間性と専門性を備えたスペシャリストの育成を図る。

「第2期はままつ産業イノベーション構想」において、「ロボティクス」は7つの成長分野の一つに掲げられている。本事業では、ヤマハ発動機を中心として、(公財)浜松地域イノベーション推進機構と連携することで、ロボット産業で働く即戦力を育成する。

ヤマハ発動機は世界トップクラスのロボティクス・デジタル人材の派遣や包括的な実習環境の提供によって、浜松市は地域産業の現状共有や地域の魅力の効果的発信によって、静岡県教育委員会はそれらの支援を総括することによって、本事業を行う。

6 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・

開	設	し	て	い	な	い
---	---	---	---	---	---	---
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・

活	用	し	て	い	な	い
---	---	---	---	---	---	---

7 意思決定機関の体制 (マイスター・ハイスクール運営委員会)

氏名	所属・職
池上 重弘	静岡県教育委員会・教育長
日高 祥博	ヤマハ発動機株式会社・代表取締役社長
鈴木 康友	浜松市・市長
佐藤 知正	東京大学・名誉教授
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制 (マイスター・ハイスクール事業推進委員会)

氏名	所属・職
都築 明宏	ヤマハ発動機株式会社 (CEO)
南部 秀樹	ヤマハ発動機株式会社 (産業実務家教員)
中山 雄二	静岡県教育委員会高校教育課・課長
井島 秀樹	静岡県教育委員会高校教育課・指導監
小林 礼治	静岡県教育委員会高校教育課・教育主幹
梨本 裕晃	静岡県教育委員会高校教育課・主査
山本 敬二	ヤマハ発動機株式会社 人事総務本部人事戦略部人材マネジメントG・主査
齋藤 昭雄	ヤマハ発動機株式会社 ロボティクス事業部営業統括部SMT国内営業部国内営業G
岩崎 英浩	浜松市産業部・次長(産業振興課長)
加藤 健太郎	浜松市産業部産業振興課・地域産業グループ長
金子 和佳	(公財)浜松地域イノベーション推進機構 事業推進部・技術支援グループ長
寺田 弘隆	静岡県立浜松城北工業高等学校・校長
鈴木 真一	静岡県立浜松城北工業高等学校・副校長
鈴木 浩	静岡県立浜松城北工業高等学校・教頭
鈴木 秀幸	静岡県立浜松城北工業高等学校・事務長

(2) 実績の説明

ア マイスター・ハイスクール運営委員会の実施

- (ア)第1回マイスター・ハイスクール運営委員会
令和4年6月20日(月)13時30分～15時45分
「事業説明」「佐藤知正教授による基調講話」
「マイスター・ハイスクールビジョンの策定」

- (イ)第2回マイスター・ハイスクール運営委員会
令和4年12月22日(木)13時30分～15時30分
「中間成果報告会について」「進捗状況及び課題と今後の展望について」等

イ マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施

- (ア)第1回マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施
令和4年9月5日(月)13時00分～15時00分
「マイスター・ハイスクールビジョンを踏まえた事業内容の決定」
「学校設定科目の開設方針」等

- (イ)第2回マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施
令和4年11月29日(火)13時00分～15時00分
「購入した実習機材について」「事業報告及び説明」
「今後の計画について」等

- (ウ)第3回マイスター・ハイスクール事業推進委員会の実施(予定)
令和5年3月20日(月)13時00分～15時00分
「令和4年度の課題について」、「令和5年度の活動について」
「2、3年目の予算措置への対応について」
「管理機関への要望について」等

ウ マイスター・ハイスクール情報交換会の実施

- (ア)第1回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施
令和4年10月14日(金)15時50分～16時45分
「校内組織について」「課題研究発表会について」
「やらまいか賞について」等

- (イ)第2回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施
令和4年11月29日(火)15時00分～16時00分
「校内組織について」「課題研究発表会について」
「やらまいか賞について」等

- (ウ)第3回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施
令和4年12月22日(木)15時45分～16時45分
「学校の魅力化について」
「中学生及び保護者への魅力の伝達方法について」等

- (エ)第4回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施
令和5年1月31日(火)15時30分～16時45分

- (オ)第5回マイスター・ハイスクール情報交換会の実施(予定)
令和5年3月20日(月)15時00分～16時00分
「令和4年度の課題について」、「令和5年度の活動について」
「2、3年目の予算措置への対応について」
「校内委員会の組織改編について」「管理機関への要望について」等

エ 管理機関「ヤマハ発動機株式会社」としての実績

- (ア)マイスター・ハイスクール課題研究発表会での管理機関名での表彰状授与
電子機械科『腕の動きをトレースしたロボットアームの製作』班に、やらまいか賞
『ヤマハ発動機ロボティクス事業部賞』を授与。

- (イ)オンライン海外インターンシップの交流先としてヤマハ発動機株式会社フィリピン工場が協力した。また、オンラインでヤマハ発動機株式会社生産本部も参加した。

- (ウ)マイスター・ハイスクールCEOを非常勤として学校に29回派遣した。また、産業実務家教員を常勤として学校に派遣した。

(エ)マイスター・ハイスクール CEO による講話「日本のものづくりとは？」令和4年7月14日に実施し、「Made in Japan」というブランドと「DX/カーボンニュートラル/SDGs/再生可能エネルギー」に関して、生徒に問いかけた。令和5年3月8日にも2回目の講話を予定している。

(オ)産業実務家教員による講話を3回実施した。1回目は、令和4年7月14日に実施し、かつてのアニメや漫画の世界の一部が実現化している技術の進歩や、高次ヒューマノイドから簡易な直線動作産業用ロボットを、動画を交えて紹介した。2回目は令和5年1月13日に「ロボット学習のススメ」と題して、学校でロボットを学ぶ意義について触れ、マイスター・ハイスクール事業への参加意欲を高めた。3回目は令和5年2月9日に実施し、「ロボティクス序論」としてロボットを学ぶことの意義と、ロボットがもたらすメリットについて講話を行った。

(カ)イノベーションセンター・トライアルオフィス視察受け入れ

指定校は教員全員を収容できる会議室がない、業務のペーパーレス化が進まないという課題を解消するために、CEO 発案のもと、同じ課題解決手法を内包するイノベーションセンター・トライアルオフィスの視察を受け入れ、各オフィスのコンセプトと現状、創造性や生産性についての影響について説明した。

オ 管理期間「浜松市」としての実績

(ア)マイスター・ハイスクール課題研究発表会での管理機関名での表彰状授与

電気科『お掃除ロボットの制作』班に、やらまいか賞『浜松市長賞』を授与。

(イ)ハマロボ展で地元ロボット企業にマイスター・ハイスクール事業への協力要請

浜松商工会議所が主催する「ハマロボ展 HAMAROBO 2022」令和4年11月25日にCEOと教頭が参加し、地元企業にマイスター・ハイスクール事業を説明すると共に講師や企業見学などの協力要請をした。

(ウ)浜松みらい塾の講師紹介、紹介ビデオ提供

マイスター・ハイスクールの目指す起業家精神を持つ人材育成のため、産業部スタートアップ推進課が主催する次世代起業家育成事業(浜松みらい塾)を指定校に紹介し、講師を紹介した。また、生徒に参加を呼びかけるビデオレターを制作した。浜松みらい塾を下記のとおり3回実施し、現場に立ち会い運営をサポートした。

第1回 令和5年1月13日 講師 福地 三則 氏 (ロボ・スタディ株式会社)

講義内容 コミュニケーションロボット開発、夢を持ち続けることの大切さ

第2回 令和5年2月3日 講師 松井 敦仁 氏 (藤本工業株式会社)

講義内容 バリ取り作業について、職人技の自動化について

第3回 令和5年2月8日 講師 上滝 憲夫 氏 (プラス電機株式会社)

講義内容 ロボット、FA システム、設計、製作について

これ以上出来ない、を乗り越えロボットを作り 50 年

カ 管理期間「静岡県教育委員会」としての実績

(ア)マイスター・ハイスクール課題研究発表会での管理機関名での表彰状授与

電子科『掛川ひかりのオブジェ展作品製作』班に、やらまいか賞『静岡県教育委員会 高校教育課長賞』を授与。

(イ)浜松みらい塾の視察

第2回(令和5年2月3日)、第3回(令和5年2月8日)を視察し、マイスター・ハイスクール事業の進捗状況の把握と管理を行った。

(ウ)オンライン海外インターンシップの支援及び視察

県事業の海外インターンシップの運営資料を学校に提供した。令和5年1月10日のオンライン開通テストにオンラインで参加、令和5年2月16日に実施されたオンライン海外インターンシップを視察した。

(エ)マイスター・ハイスクール校内委員会への参加

マイスター・ハイスクール校内委員会に参加し、県教育委員会として適切な助言と支援をした。

(オ)イノベーションセンター・トライアルオフィス視察

イノベーションセンター視察では部門の垣根を取り払い、コミュニケーション重視の

オフィスレイアウトの利点について説明を受けた。トライアルオフィスでは、コンセプト「ありたい働き方」を実現した働き方改革について説明を受けた。アドレスフリーによる自由な座席とコミュニケーション重視の室内レイアウトは学校現場においても十分に活かすことができるものと感じた。また、視察には、高校教育課に加えて、教育DX推進課長も参加し、県教育委員会全体の働き方改革の参考とした。

(カ) 産業実務家教員への特別免許状の交付

令和5年度のマイスター・ハイスクール事業において、学校設定科目「ロボティクス実習」及び課題研究を受け持つことができるように令和5年*月*日付けで産業実務家教員へ特別免許状を交付した。

(キ) マイスター・ハイスクール CEO 及び産業実務家教員の任用等

マイスター・ハイスクール CEO を非常勤として任用し、年間29回の勤務を命じた。産業実務家教員を常勤として任用した。また、2人には、校内ネットワークに接続できるパソコン等を貸与した。

(ク) 令和5年度事業費の予算措置

計画していた令和5年度事業を実施するため、県費で予算を確保した。

10 事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マイスター・ハイ スクールビジョン			策定									
マイスター・ハイ スクール校内委員会		実施				実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
学校設定科目 「ロボティクス実 習」						立案	→	→	→	申請		
4科が連携する ものづくり						実施	→					
ロボットアイデア甲 子園					見学会		発表会					
産業見学										実施	実施	
ISO(9001, 14001, 27001)研修				実施					実施			
起業プログラム 「浜松みらい塾」										実施	実施	
オンライン海外 インターンシップ						募集	研修	→	→	→	実施	
CEO 及び産業実務家 教員による特別講話				実施						実施	実施	
産業用ロボット教示 スクール視察											実施	
事業費の予算措置											実施	

(2) 実績の説明

ア マイスター・ハイスクールビジョンの策定

令和4年6月20日に開催された第1回マイスター・ハイスクール運営委員会において下記4つのビジョンが策定された。

A ロボット産業に係る学校設定科目の設定。

B ロボット関連企業と連携した実習。ロボットアイデア甲子園等による専門性の向上

C 学科を代表する4つの部活動の連携を手始めとした各科連携のものづくり

D インターンシップ、産業見学、ISO 研修(9001, 14001, 27001)、起業プログラム、海外インターンシップ等によるこれからの製造業、ものづくりサービスの理解

イ マイスター・ハイスクール校内委員会の設置と実施

役割ごとに3つのマイスター・ハイスクール校内委員会を設置した。全体を統括する校内委員会Ⅰ(教員数7人)、校内連携を推進する校内委員会Ⅱ(5人)、外部との連携を推進する校内委員会Ⅲ(7人)に合計19人がマイスター・ハイスクール事業の中心的役割を果たした。

ウ 学校設定科目「ロボティクス実習」の立案と申請

生徒や地域の実態、学科等の特色に応じた教育課程を編成するため、校外学修活動として「ロボティクス実習」を新設した。指定校の生徒は、地元への就職希望が多く、実際に多くの生徒が卒業後は地元で働いている。地元企業と連携することにより、地元企業が求める人材像を共有するとともに、人間性と専門性を備えたスペシャリスト人材を育成、ロボット産業で働く即戦力を育成する。科目の目標は地元のロボット関連企業において、安全教育や実習等の実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、工業の見方・考え方を働かせ、ロボット工学についての知識及び技術を育成するとともに、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成、課題を発見し解決する力、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことである。夏休み期間中の集中講義とし、令和5年7月下旬に開設予定である。

エ 4科(機械・電子機械・電気・電子科)が連携するものづくりの実践

ロボットは統合の産物であり、4科が連携することは大いに意義がある。はままつフルーツパーク時之栖が主催する自作イルミネーションの祭典「イルミミュージアム」に4科の生徒が協力して制作した作品『夢』を出展した。イルミネーションの投票では2位を受賞することができた。当初、生徒は他の学科の生徒との制作に戸惑いがあったが、さまざまなアイデアと制作方法でイルミネーションを完成させることができ、制作をとおして「統合の産物」を体験すると共に生徒の自己有用感を高めることができた。

オ ロボットアイデア甲子園への参加

一般社団法人 日本ロボット工業会 FA・ロボットシステムインテグレータ協会が主催するロボットアイデア甲子園は、産業用ロボットを使用したシステムを見学し、産業用ロボットに対する知識を深めるとともに、新たな産業用ロボットを使用したアプリケーションのアイデアを競うものであり、本事業の運営委員の一人でもある東京大学名誉教授 佐藤知正氏が審査委員長を務めている。静岡県西部地区の見学会は株式会社 日本設計工業技術ターミナルで実施され指定校から37人の生徒が参加した。このうち2人が静岡県西部大会にノミネートされ、RWR(リモートワークロボット)が敢闘賞を受賞した。

カ 産業見学の実施

工業用ロボットを扱う企業を見学することでロボティクスに対する興味と関心を高めた。見学先はコンチネンタルオートモーティブ、株式会社トーエネック、A.I.S株式会社、エンケイオートモーティブ株式会社、エンシュウ株式会社、株式会社桜井製作所である。

キ ISO(9001, 14001, 27001)研修の実施

ISO9001 内部監査員研修を実施し令和4年6月19日付けで18人が研修終了となった。また、ISO14001 内部監査員研修を実施し、令和4年4月30日付けで19人、令和4年7月17日付けで15人、令和4年7月17日付けで5人、令和4年12月11日付けで2人が研修終了となった。ISO27001 内部監査員研修を実施し令和4年4月30日付けで33人、令和4年7月31日付けで12人が研修終了となった。

ク 起業プログラム「浜松みらい塾」の実施

浜松市と連携し、マイスター・ハイスクールの目指す起業家精神を持つ人材育成のために「浜松みらい塾」を実施した。生徒には浜松市産業部が制作したビデオレターを視聴させることで浜松市の目指す起業家精神を正しく生徒に伝えることができた。また、新しい試みであったが、教員がビデオレターを見ることで共通の認識を持つことができたことも大きな成果であった。詳細は「9 管理機関の取組・支援実績(2)オ(ウ)」のとおり。

ケ オンライン海外インターンシップの実施

令和4年9月に生徒を募集し、機械科2年生5人、電子機械科1年生3人、電気科1年生15人、計23人が参加することになる。指定校では英語に苦手意識を持つ生徒が多く、英語での交流を目指すオンライン海外インターンシップの募集に生徒が集まらないのではないかとの不安も聞かれたが、予想外の希望者数であった。これは2学期始業式においてマイスター・ハイスクール CEO が英語で参加を呼びかける挨拶をした効果も大きい。11月には生徒が英語による自己紹介ビデオと英語版の学校紹介を作成し、交流先のヤマハ発動機フィリピン工場に披露したところ、指定校のオンライン海外インターンシップへの意欲

も高く評価してもらうことができ、良好な協力関係を構築することができた。令和5年1月10日の試験接続を経て、令和5年2月16日にヤマハ発動機株式会社フィリピン工場とのオンライン海外インターンシップを実施できた。内容はフィリピン工場紹介と生徒とフィリピン工場従業員との質問コーナーであり、当日は新聞各紙やヤマハ発動機株式会社生産本部、静岡県教育委員会も参加した。指定校では自動車や二輪車メーカーへの就職を目指している生徒が多く、ロボットを活用した最新の製造現場が見られたことで学習意欲の向上が見られたと共に、日本式ものづくりが世界に通用していることに自信をもつことができたようだ。

コ マイスター・ハイスクール CEO による講話

令和4年7月14日、令和5年3月8日の2回にわたり、マイスター・ハイスクール CEO による特別講話を実施した。講話の詳細は「9 管理機関の取組・支援実績エ(エ)」のとおり。講話によって、生徒のロボティクスへの興味関心の高まりとともに、ものづくりの楽しさ、ロボティクス人材の必要性を理解させることができた。

サ 産業実務家教員による講話

令和4年7月14日、令和5年1月18日、令和5年2月9日の3回にわたり、産業実務家教員による特別講話を行った。講話の詳細は「9 管理機関の取組・支援実績エ(オ)」のとおり。生徒の7割が就職を希望する現状で、ヤマハ発動機株式会社の社員の方から聞く話は説得力と現実感があり、自分たちが必要な人材として認められていることを実感できたようだ。

シ 産業用ロボット教示スクール視察

令和5年2月15日、16日の2日間、産業実務家教員が(公財)浜松地域イノベーション推進機構及び浜松市が主催する産業用ロボット教示スクールを視察した。産業用ロボット教示スクールは産業用ロボットのティーチングを基礎から学べるロボット人材育成講座であり、「産業用ロボットの教示等の業務に係わる特別教育」の修了証が発行されるものである。本事業のロボティクス人材の育成と重なること、学校設定科目「ロボティクス実習」、「ロボティクス概論」のヒントとなる内容を多く得ることができた。

ス 令和5年度事業費の予算措置

令和5年度のマイスター・ハイスクール事業の文部科学省の予算措置を受けてマイスター・ハイスクール事業計画の見直しが必要となったが、静岡県教員委員会の予算措置によって、当初の計画通り実施できることとなった。加えて、当初、令和6年度からを予定していた海外インターンシップを令和5年度に行うことや、成果発表会の校外実施等についても見込むことができた。この予算措置により、より広い活動範囲と、活動を周知、還元していく道筋を作ることができた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

本事業で定めた定量的目標に対する評価結果は、次のとおりである。

項目	目標値	9月	12月	増減
技能検定の合格者数	100人以上	24人 (前期)	0人 (後期)	R5年度末に評価
ロボット産業に係る学校設定教科・科目を履修した生徒	100人以上	0人		
ロボット関連企業に就職する生徒	100人以上	138人		R5年度末に評価
「進路を意識した具体的な取組をしている」と答えた生徒	80%以上	80%	81%	+1%
「授業に、自分の考えを表現する場面や対話する場面が取り入れられていて、理解を深めることができる」と答えた生徒	90%以上	91%	91%	0%
授業アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒	80%以上	77%	80%	+3%

本事業で定めた定性的目標に対する評価結果は、次のとおりである。

- (1) ロボティクス・デジタル人材育成のための教育課程による専門性の向上
学校設定科目「ロボティクス実習」及び実務家教員による課題研究は令和5年度から実施予定のため、令和5年度末にアンケートを実施して評価する予定である。
- (2) ロボット産業に係る学校設定教科・科目の指導書の作成
学校設定科目「ロボティクス実習」は科目の目標、内容が決定し、静岡県教育委員会に申請済である。指導書については令和5年度以降に取り組む予定である。
- (3) 地元企業等と連携した本校生徒向けの起業プログラムの作成
浜松市より紹介された起業プログラム「浜松みらい塾」を3回実施し、合計185人の1年生が参加した。浜松の地で業を起し、時代の荒波を乗り越えた講師陣の力強いメッセージは、生徒に会社を経営する醍醐味と夢を持ち続ける大切さ、時代の変化に合わせて事業を進めていく柔軟さを学ぶことができた。また、若い講師においては企業で働くことの意味や、等身大の職業感が多くの生徒から共感を得た。積極的に質疑が行われたことは、浜松みらい塾が成功した証となるものである。
- (4) 海外インターンシップ（オンラインを含む）の実施（海外展開している企業における、日本式のロボット化されたものづくり現場を実体験する学習）
令和4年度はオンラインによる海外インターンシップとし、ヤマハ発動機フィリピン工場とオンライン海外インターンシップを実施した。事業開始直後の2学期始業式でのマイスター・ハイスクールCEOからの英語による告知から実施まで、オンラインとはいえ、現地従業員と英語で質問のやり取りをすることで海外インターンシップに近い体験を実現できた。
参加した生徒は、自分の英語による自己紹介がフィリピン工場から高評価を受けたことによって自己肯定感を高めた。また、日本とフィリピンのバイク需要の方向性の違いを知り、国ごとの方向性を合わせた製造方式で様々な工夫がされていること、改善を継続し、努力を惜しまない姿勢に感動していた。これらのことから令和4年度の海外インターンシップは目的を達成できたといえる。
- (5) 各科の連携及び企業との連携の促進（ロボットに関する創造や産業に焦点化）
はままつフルーツパーク時之栖が主催する自作イルミネーションの祭典に各科が連携して制作したイルミネーションを出展し、2位を受賞した。本校にとって各科連携は初めての試みであったため教員、生徒共に戸惑いがあった。
当初は連携がうまく進まずに制作が間に合わないことが危惧されたが、しだいに連携が進み、それぞれの得意分野を生かして完成させることができた。令和4年度の成果としては、各科が連携したこと、イルミネーションという成果物を生み出したことが大きな成果であったといえる。各科連携と企業との連携は令和5年度以降の課題としたい。

- (6) マイスター・ハイスクールに係る報告書の作成や発表を通じた事業内容の周知と県内実業系高校への波及（「ロボット＝統合の産物」であり、本事業の取組がロボティクス・デジタル人材の育成に寄与することを広報する。）

成果報告書を作成し、県下の実業系高校に配布予定である。また、連携した管理機関や企業にも配布することで、事業内容の周知と県内実業系高校への波及を図る。

- (7) 全職員が参加する「マイスター・ハイスクール研修会」の実施による共通意識の醸成
校長より4月、6月の職員会議において全職員体制で取り組むことが周知された。また、5月には3つの校内委員会の全体会を開き、共通意識の熟成を図った。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

- (1) ロボットアイデア甲子園、浜松みらい塾、オンライン海外インターンシップなど、外部との関りが増えつつあるが、参加は一部生徒に限られている。来年度は生徒会組織の中にマイスター・ハイスクール委員会を設置し、生徒主体の取組も図っていきたい。
- (2) 一部の教員に負担が偏っているため校内の組織改善を予定している。全職員にマイスター・ハイスクールの事業に関わる係の割当てを行い、負担の軽減と事業の継続性を推進したい。
- (3) 本事業は「ロボティクス人材のエコシステム」を構築しようとしているが、浜松城北工業高校への入学を希望する中学生は減少傾向にある。これではエコシステムとして成立しないことが課題となっている。まずは、中学生に対してマイスター・ハイスクールの魅力を発信できていないことが原因と考え、成果報告書を活用して中学生の進路担当教員への広報に力を入れること、校内でマイスター・ハイスクールのイベントを開き、中学生にアピールすることを考えている。